

今回の桂川人 ― 1万2千キロ彼方でのチャレンジ！

稲岡 麻美さん (二五) 桂川町桂ヶ丘



▲ “今しかできないことですから”と青年海外協力隊に参加したいきさつなどを話す稲岡さん。

ありません。”と答えられた時のニツコリした表情が印象的でした。

“子どもが好き” “社会に貢献する職に就きたい”と幼いころから思っていた稲岡さんは、大学で教育課程を修了し、卒業後は埼玉県で教壇に立っていたそうです。そうした中で「他の国の子どもたちや教育現場を見てみたい。」と強く思うようになったとのこと。もちろん旅行や短期の研修などではなく、教師と生徒というように正面から向き合ってみたいと思っていた時、青年海外協力隊募集があることを知ったそうです。

心配ごとや不安、プレッシャーはないのですか？

過去にフランスやイギリスの統治下であったカメルーン共和国では、フランス語や英語が公用語として使われています。また、約200以上の部族が集まった国のため、多くの部族語も話されています。

こうした言葉の壁や不安について尋ねると「習うより慣れる。郷に入っては、郷に従え。どこでもやっていける自信があります。」と話されました。

カメルーンの学校では、体育・図画工作・音楽を教える稲岡さん。しかし、教室には黒板、机、椅子とわずかなノートや筆記具のみ。楽器や教科書などもない状況。しかし、微塵も不安と思わない稲岡さんの強さの秘密について尋ねてみました。

今

回の桂川人は、今年度、青年海外協力隊に応募し、カメルーン共和国で初等教育学校の教壇に立ち、子どもたちの指導や現地教員への指導技術の紹介など、国際貢献の場で活躍する稲岡麻美さんです。

どうして青年海外協力隊に？

昨年の12月16日。年明けのカメルーン共和国への出発を前に、稲岡さんが井上町長を表敬訪問しました。

前日までは、長野県での2ヶ月間に及ぶ青年海外協力隊派遣の事前訓練を受けていたとのこと。「お疲れじゃないですか？」との井上町長の問いかけに、「これからカメルーンでの2年間の生活を考えれば大したことはありません。」

February 2009

町の交差点 WIDE

地域のニュースは総務課 (☎65・1082) まで



“Classic Concert 弦楽四重奏の調べ” in 桂川町立図書館

11月27日、町立図書館で日本フィルハーモニー管弦楽団員4名によるミニコンサートが開催されました。モーツァルトの“アイネ・クライネ・ナハトム・ジーク「第1楽章」”や童謡“赤とんぼ”、筑豊出身の歌手・井上陽水さんの代表曲“少年時代”、青春を感じさせる昭和の不朽の名歌“青い山脈”他、全9曲が演奏されました。弦楽器が奏でる楽曲は、歌謡曲などとはまた違った味わい深さがあります。参加された方にお話を伺うと「楽器の生の音が心地よかった。」「懐かしい曲もありうれしく、口ずさんでしまった。」「ぜひ、またこのような機会を設けて欲しい。」など、どなたからも優しい笑顔で感想が返ってきました。